

## 日月会 プレ・フォロ 第11回 議事録

日時 2011.09.10(Sat.)	時間 13:00-15:00	場所 武蔵野美術大学新宿サテライト 内教室	記録 向田良文
出席者(敬称略・順不同) プレ・フォロメンバー：更田、真壁、寺田、酒向、石川、向田			
陪席：			
配布資料 プレ・フォロ第11回 議案書(事前プレ・フォロメーリングリストにて会長提示)			

事録議	備考
<p><b>1. プレ・フォロ未定メンバーについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立花ゼミ：石川幸さん本日出席。</li> <li>岩淵ゼミ：池野ひできさん(東京在住)にお願い出来そう。(真壁さんから報告あり)</li> <li>宮下ゼミ：進展なし。</li> </ul>	石川さんにお引受けいただくかご検討いただく。
<p><b>2. 連絡網整備の報告と今後の展望</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年の「ホームカミングディ」(10月29日開催予定)へに案内を会員へ送るべく進めたい。</li> <li>新たな各期の名簿収集については、毎年促しても5期ごとの担当者が、その負担が大きいと感じるだけである。5年に1度、キャンペーンを設けて、行うことが良いのでは？</li> </ul>	「3期は、太田さんが担当いただけるのではないか」というご意見が真壁さんからあった。
<p><b>3. 今年の「ホームカミングディ」のイベント「シンポジウム：日月進歩」のテーマとパネラーについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>酒向さんから紹介の同期で自給自足生活をしている七田紹匡さん(21期竹山ゼミ・元「アイコン」編集者)がパネラーを引受けてくださる。</li> </ul>	その後、執行部企画委員からも七田さん連絡を取り、了解が取れた。
<p><b>4. 新規に開設されたフォロの報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>更田会長から、「311 サポート・フォロ」と「歴文・フォロ」の現況についての報告があった。</li> </ul>	10/16に開催する「311 サポート・フォロ」にて代表の前田さんにご報告いただくことになった。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 311 学生サポート：学生のべ 36 名のボランティアは現地で非常に評価が高かったらしい。（現地で世話をした RQ の方に確認したお話として石川幸さんから報告）</li> </ul>	
--	--

<p><b>5. プレ・フォロを会則に定義する件</b></p> <p>（更田会長提案の会則・規則改定案はメーリングリストにて配布のプレ・フォロ第 11 回議案書による）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現時点でプレ・フォロを会則に条文化するべきではない・・・という意見が執行部から出された旨、更田会長から報告があり、そのことについて、プレ・フォロメンバーの意見を聞きたいということからこの議論となった。</li> <li>・ 会則に定義することで首が絞まることにならないか？プレ・フォロの運営は会長次第。（執行部任期は 4 年）</li> <li>・ プレ・フォロは、誰のため、何のため、存続の意義は？、理念を語れなければ成り立たない。会則を幫助する理念が重要である。また、大学との関係及び位置づけも重要。</li> <li>・ プレ・フォロは執行部とは別の位置づけになる。</li> <li>・ 現状、プレ・フォロ開催の回数が多いのでは？</li> <li>・ 行事に併せて開催すれば参加者が増えるのではないかと思っている。（更田）</li> <li>・ プレ・フォロは飲み会として気楽に参加できる方が良い？</li> <li>・ 世代によって大学に対する認識が違う。違う世代の先輩、後輩とのつながりを持ち話をするには有意義である。</li> <li>・ プレ・フォロの敷居が高いと参加者が少ない、続かない。</li> <li>・ プレ・フォロの持って行き方を議論すべき。</li> </ul>	<p>次回も引き続き、議案とすることとなった。</p>
--	-----------------------------

<p><b>6. その他</b></p> <p>■芦原義信賞の対象者を「本学すべての分野の卒業生」から「建築学科出身者に限る」に変更する。（建築学科高橋教授から更田会長に連絡があったとのこと）プレ・フォロメンバーの意見は？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 竹山実賞は建築プロパーであり、芦原賞は長年の活動、業績などが対象となり得るのではないか。それぞれの賞の大きな違いは、その点が重要である。</li> <li>・ 審査員の構成も重要な要素である。</li> <li>・ 賞の位置づけを明確にして要綱に明記すべき。</li> </ul>	
---	--

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 卒業生の情報が乏しい。日月会HPからブログにリンクとか、芦原賞の選考、シンポジウムパネラーなど、情報が少ない。</li></ul>	これらの意見を更田会長から、高橋教授に伝えてもらうこととなった。
---	----------------------------------